

Chapter 05



基本方針3

自然との共生

人の手で適度に自然を守り育て、自然が生み出す資源の循環活用を行うことで、生物多様性の損失を止め、神戸ならではの多様な自然を将来世代に引き継ぎます。

施策の方向性

☑ 豊かな自然を守り育てる

- + 多様な生物の生息・生育環境の保全・再生・創出
- + 自然共生サイトでの実証事業等とおした、人の手が入らないことによる生物多様性の喪失・恵みの低下への対応



北区山田町の里山

北区・西区などにある里地・里山において、多様な主体と連携し、希少な動植物の保全や棚田・畑の再生などに取り組みます。

- + 市民団体等との協働による、希少な動植物の保全
- + 外来生物および野生鳥獣被害防止対策

☑ 自然の豊かさをともに学び、未来の担い手を育てる

- + 地域の自然から学ぶ取組の推進



外来生物展示センター

外来生物展示センター等の拠点を活用し、実際の体験をおとした生物多様性保全への理解を促進します。

- + 生きものと人をつなぐ、未来の担い手の育成・確保
- + 企業によるネイチャーポジティブ経営などの推進
- + 各種モニタリング調査による、生物の生息・生育情報などの情報収集

☑ 自然の力を活かし、社会を支える

- + 森林(里山)等の資源の循環・活用



- + 土砂災害防止や水質浄化等、自然の多様な機能を活かした社会課題の解決
 - + 環境保全型農水産業の推進
 - + 地域の課題解決を目指した、農村部と都市部の連携
 - + 栄養塩類管理運転※の実施などによる豊かな里海づくりの推進
- ※多くの栄養分を含む水質となるよう、下水処理場の運転方法を調整し海へ放流すること

詳しくは 生物多様性神戸プランへ



これらの取り組みは、 **カーボンニュートラルの実現** **ごみの減量と資源の循環** にもつながります。
例)神戸の豊かな自然を活用してCO₂を吸収・固定させる、自然の力を活用してごみを減らす

